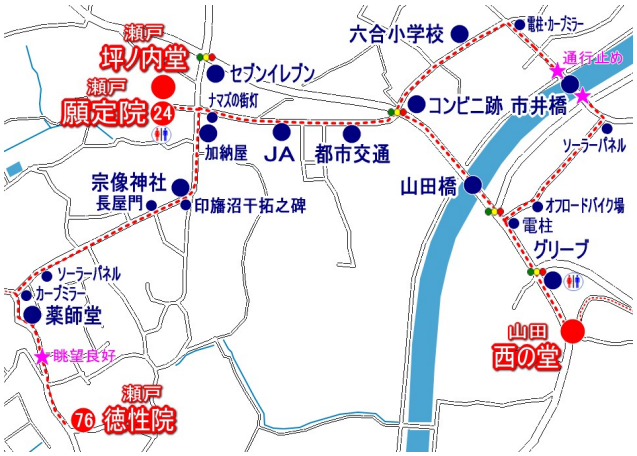
印西大師　第24番　瀬戸・願定院

1　名称　(No.024)〔手引鏡：願定院〕〔資料館：願定院〕〔行程表：願定院〕

2　場所　印西市瀬戸270 願定院(がんじょういん)
西の堂から道程約1,240m（山田橋経由）
西の堂から道程約1,880m（市井橋経由）
※市井橋は眺望が良いが、現在、通行止め
GPS座標 35.775969727148436, 140.220089836992



3　由緒　天台宗 無量寿山 願定院 本願寺
瀬戸村字井戸向にあり 天台宗比叡山派にして泉倉寺末なり 阿弥陀如来を本尊とす 創建不詳と雖も元本寺也門徒二ケ寺一は神明山実蔵寺妙覚院一は東諦山光明寺等覚院也当山鐘銘に元禄四未星願主二十五世法師玄照とあり 元寺地は村内字寺方なるを以て何年頃か当地へ移転せり 其の時を以て一世と改め伝へし由にて太古を詳にせず 斯て古寺跡を開墾地にし今猶当寺の所有とせり 将門徒の本尊由緒を繹ぬるに等覚院の多聞天妙覚院の不動明王其に僧行基菩薩の作なる由 霊験著しく衆人信仰厚し 宜哉当山馬頭大士脇に不動多聞天を安置せり 疑を容れざる所よりして前領主堀田家に於ても領内十一万三千石の内五個の祈念石と定め五穀成熟を祈るは今人の知る所也 檀徒325人（印旛郡誌）

4　御堂　大師堂の中に丸彫りの御大師様が１体あり。

5　境内　山門と本堂、北側に馬頭観音堂、毘沙門堂、石神大明神、墓地があり、東側に大師堂や西の堂(集会所のような建物)がある。ピンク色の花房の藤棚がある。秋の紅葉もきれいだ。

6　写真　(2023.05、2025.04撮影)

大師堂(2025.04)

御大師様

大師堂

山門

本堂

山門と大師堂

7　情報

(1) 印西大師 第24番 願定院 御詠歌（泉倉寺本による）

明星の出ぬる方の東寺 暗き迷ひはなどかあらまし(じ)

四国八十八ヶ所 第24番 真言宗豊山派 室戸山(むろとざん) 明星院(みょうじょういん)

最御崎寺(ほつみさきじ) 本尊 虚空蔵菩薩 （高知県室戸市）写し

(2) 願定院の縁起（現地説明板より）

願定院(正式には無量寿山願定院本願寺)は天台宗に属し、印西市小倉の泉意寺の末寺です。この宗派は、伝教大師(最澄)を開祖とする比叡山延暦寺を本山としています。

イ、本尊は阿弥陀如来坐像(木造、年代不詳)で、開山貞観大和尚から数えて十五世になると、明治三十一年八月二十一日当時の住職山口永信師が記録している。

ロ、現本堂および山門は享保十四年(一七二九年)三月、住職宋禅の代に再建されたと伝えられ、以前の客殿も明和五年(一七六八年)三月、宋覚、豪寛両住職により建立されたものであったが、老朽したため取り壊され、昭和五十二年に現在の庫裡が新しく建てられた。梵鐘は太平洋戦争で供出させられ、鐘堂だけがのこっている。

ハ、明治維新の際、神明山宝蔵寺(郷)と東蹄山光明寺(新立)が廃寺とり、願定院に合併された。

観音堂左側にお堂がありますが、光明寺から移された毘沙門天(木造立像、年代不詳)が安置されております。

また里伝によれば、神明山に葬った白馬がまぼろしとなって現れ、房田を越え井戸向(現在地)に消えることがたびたびあったので、村人が観音堂を建て、馬頭観世音を安置して馬の霊を鎮めたとされ、本尊馬頭観世音菩薩像は桐の一木造りの立像で高さ約一米、行基の作と伝えられています。

檀家総代

(3) 願定院過去帳から瀬戸村を考える（松本隆志「いんざい再発見」Webより）

現在、願定院門前の案内看板には「開山貞観大和尚から数えて15世になると、明治31年8月21日当時の住職・山口永信師が記録している」とあります。この「開山貞観大和尚」は山田地区（旧山田村）の天台宗西定寺の開山和尚のことです。願定院の住職が西定寺と同じであるため混乱したようです。

また、同案内看板には「明治維新の際、神明山宝蔵寺妙覚院（字郷）と東諦山光明寺等覚院（字新立）が廃寺となり、願定院に合併された」とも記されています。

廃寺となった東諦山光明寺等覚院は六合小学校付近の小字・新立に在ったそうです。新立は、東側が印旛沼に面しています。戦国時代は台地の地先に「立城」がありました。

『印旛村史』には、地元の片野峯吉氏が、「ここの城主は片桐伊豆守という人物であったと親から聞かされている。その子孫が片野氏です。昔は館村と言って片野一族の村で、熊野神社は氏神様でした。また、神社の西側には東諦山光明寺等覚院があって、片野一族の菩提寺でした」という談話を寄せています。

現在の願定院の境内には、等覚院の祠があります。東諦山光明寺等覚院は戦国時代が終わるころまで存在していたのかもしれません。

廃寺となったもう一つの神明山宝蔵寺妙覚院のあった場所は、小字・郷の宗像神社裏手付近を指しています。そのあたりから願定院のある井戸向に「白馬が飛んでゆくのを夜な夜な見た」という幻のような白馬の里伝説があると願定院の案内板には書かれています。いつの時代であるのか、伝説の起源は分かりませんが、おそらく願定院の馬頭観音堂の設立と関係がありそうな説話です。

（松本隆志「いんざい再発見」Webより）

(4) 2025年4月4日印西大師第4日目願定院にて

2025年の印西大師は4月1日から3日連続の雨でしたが、4日目は晴れたので、ここで巡拝の方々の納経(読経)や、地元の皆さんのお接待の様子を見学させていただきました。第24番の大師堂

前、番外(坪ノ内堂)の大師堂前、西の堂前でそれぞれ般若心経を納経(読経)され、それが終わると地区の役員の方々がお接待をされていました。巡拝の方々一人ひとりにポリ袋に入ったお接待品（飲料、あんぱん、バナナ2本）が渡されたほか、熱いお茶やお菓子が振舞われました。私にまでお接待をいただきました。ありがとうございました。

ここの役員は3年ごとに交代となるそうです。そのため現役員さんは昔のことはわからないということでした。しかし、巡拝の一行を待っている時間に役員さんたちで2月や5月の小廻り大師のやり方や日程などを話し合っていましたので、組織がしっかりしていて頼もしい限りです。

印西大師巡拝の方々の納経(読経)

西の堂の中(大日如来？)

西の堂の前でお接待

2025.04一部追加・修正